



受付第 03A1466 号
受付日：平成15年 8月12日

品質性能試験報告書

試験結果は以下のとおりであることを証明する。

平成15年 8月29日

財団法人 建材試験センター
中央試験所長 勝野 幸
埼玉県草加市稲荷5丁目2番20号

試験名称	木造建築用接合金物の引張試験
依頼者	会社名：株式会社 カ ナ イ 所在地：埼玉県八潮市西袋717番1号
試験体 (依頼者 提出資料)	1. 接合金物 名 称：木造建築用柱脚仕口金物 商 品 名：シークホールダウン C-HD2530 用 途：柱脚の仕口に使用される金物（アンカー型） 寸 法：幅40mm，長さ240mm，厚さ4.5mmの鋼板添え板にコの字形に折り曲げた 厚さ4.5mmの鋼板を溶接したもの（図-3参照） 材 質：SPHC (JIS G 3131) 表面処理：ダクロタイズド処理 2. 接合具 木ねじ：3#角ビット鍋スクリュー 10-φ6.0×90mm（ねじ部の長さ75mm） 谷の径；4.5mm，ねじ山のピッチ；2.7mm，ねじ先の形状；切り刃先 材質；SWRCH22A (JIS G 3507) 相当品であり，下記の化学成分を満足する。 C (0.18～0.23%)，Si (0.10%以下)，Mn (0.70～1.00%) P (0.030%以下)，S (0.035%以下)，Al (0.02%以上) 表面処理：ダクロタイズド処理 アンカーボルト：M16六角ボルト，材質；SS400 (JIS G 3101) 表面処理；Ep-Fe/Zn 5/CM2 C (JIS H 8610及びJIS H 8625) 3. 使用軸組 柱：樹種；すぎ，寸法；105×105mm，含水率；9.6～10.6%，密度；0.46～0.52g/cm ³ 4. 試験体数 7体（うち1体は予備試験体） 参 照：図-1～図-3（試験体の形状・寸法）
試験方法	木造軸組工法住宅の許容応力度設計（監修：国土交通省住宅局建築指導課・木造住宅 振興室，企画編集・発行：財団法人日本住宅・木材技術センター）の2章「木造軸組 工法住宅の各部要素の試験方法と評価方法」の2. 「平成12年告示第1460号に 基づく仕口及び継手の試験法，評価法」に従って行った。その詳細を表-1に示す。
試験結果	耐力算定基礎資料：表-2 短期基準接合引張耐力 (P _{ot})：37.3kN 荷重-変位曲線：図-4及び図-5 破 壊 状 況：写真-1～写真-6
備 考	当該試験結果は，平成12年建設省告示第1460号表三（ぬ）に定める 15kN用引き寄せ金物×2枚（必要耐力30.0kN）に該当する。
試験期間	平成15年 8月12日 ～ 13日
担 当 者	構造グループ 試験監督者 橋 本 敏 男 試験責任者 高 橋 大 祐 試験実施者 室 星 啓 和
試験場所	中 央 試 験 所



受付第 0 3 A 1 8 0 4 号
受付日：平成 1 5 年 9 月 2 2 日

品質性能試験報告書

試験結果は以下のとおりであることを証明する。

平成 1 5 年 1 0 月 3 0 日

財団法人 木材試験センター
中央試験所長 勝野 幸
埼玉県草加市稲荷 5 丁目 2 番 2 0 号

試験名称	たて枠を介して接合された木造建築用接合金物の引張試験
依頼者	会社名：株式会社 カ ナ イ 所在地：埼玉県八潮市西袋 7 1 7 番 1 号
試験体 (依頼者 提出資料)	1. 接合金物 名称：木造建築用柱脚仕口金物 商品名：シークホールダウン C-HD 2 5 3 0 用途：柱脚の仕口に使用する金物（アンカー型） 寸法：幅 40mm，長さ 240mm，厚さ 4.5mm の鋼板添え板にコの字形に折り曲げた厚さ 4.5mm の鋼板を溶接したもの（図-3 参照） 材質：SPHC (JIS G 3131) 表面処理：ダクロタイズド処理 2. 接合具 木ねじ：3 # 角ビット鍋スクリュー 10-φ 6.0×90mm（ねじ部の長さ 75mm） 谷の径：4.5mm，ねじ山のピッチ：2.7mm，ねじ先の形状：切り刃先 材質：SWRCH22A (JIS G 3507) 相当品であり，下記の化学成分を満足する。 C (0.18~0.23%)，Si (0.10%以下)，Mn (0.70~1.00%) P (0.030%以下)，S (0.035%以下)，Al (0.02%以上) 表面処理：ダクロタイズド処理 アンカーボルト：M16 六角ボルト，材質：SS400 (JIS G 3101) 表面処理：Ep-Fe/Zn 5/CM2 C (JIS H 8610 及び JIS H 8625) 3. 使用軸組等 柱：樹種：すぎ，寸法：105×105mm，含水率：7.6~9.3%，密度：0.45~0.50g/cm³ たて枠：樹種：すぎ，寸法：45×105mm，含水率：7.3~9.3%，密度：0.44~0.48g/cm³ （注）接合金物の設置位置におけるたて枠の止め付けは下記による。 N90 ぐきを 150mm 間隔（ちどり）で平打ち 4. 試験体数 7 体（うち 1 体は予備試験体） 参照：図-1~図-3（試験体の形状・寸法）
試験方法	木造軸組工法住宅の許容応力度設計（監修：国土交通省住宅局建築指導課・木造住宅振興室，企画編集・発行：財団法人日本住宅・木材技術センター）の 2 章「木造軸組工法住宅の各部要素の試験方法と評価方法」の 2. 「平成 1 2 年告示第 1 4 6 0 号に基づく仕口及び継手の試験法，評価法」に従って行った。その詳細を表-1 に示す。
試験結果	短期基準接合引張耐力 (Pot) : 3 1 . 4 k N 耐力算定基礎資料：表-2 荷重-変位曲線：図-4 及び 図-5 破壊状況：写真-1 ~ 写真-6
試験期間	平成 1 5 年 9 月 2 2 日
担当者	構造グループ 試験監督者 橋本 敏 男 試験責任者 高橋 大 祐 試験実施者 守 屋 嘉 晃 ， 室 星 啓 和
試験場所	中央試験所